

取組の名称等
平成30年度もりの学舎ようちえん

ねらい
四季を通じた自然体験により、親子で自然に親しんでもらい、自然への接し方を体得してもらう。
自然に親しむことで、持続可能な社会について考え行動する人となる動機づけとする。

学習者の状況
4歳以上の未就学児とその保護者を対象としている。保護者が子どもに自然体験をさせたくても、やり方が分からない方が多い。

この事例に関連する主なSDGs



取組の内容
1 森にある危険ないきものを紹介するなど、自然に親しんでもらうところからスタート（5月）

工夫
「ハチさん飛んできた！」
…スタッフがハチ役となり、楽しみながら、何度も声かけをして対処方法を覚える。 **ゲーム化**
「森のお弁当作り」
…自ら探してきたお気に入りの自然物を食べ物に見立て、子どもの想像力をかきたたせる。 **共感・納得**
見守り

学習者の反応




ハチは怖いけど、楽し〜い！



木の枝がハシみたい！
この石はおにぎりに見えるね！

学習の効果&主に育まれる力



森に入るときに注意することについて知ることができ、森での過ごし方を知ってもらうことができる。
お気に入りの自然物を使って遊ぶことで、自然に親しむことができる。

2 生きものにふれる、森にある物を使った工作、森にあるドングリや栗などをつかった料理、たき火などにより、四季を通じた自然体験を行う（7月～1月）


「森の木を使ったスプーン作り」
…森で自ら切り出した木を使うことで、スプーンに愛着を持ってもらい、家でも自然体験をしたことを思い出して、家族で森について話してもらう。 **本物体験**

学習者の反応



この木はこんな使い方ができるんだ！
スプーンかわいい〜！

自然物にふれ、それを活用して道具を作ることで、活動以外の日も自然について考えることができる。



3 まとめ（3月）


雨で危険であったため森での活動は中止となったが、年間を通じてもりの学舎ようちえんに参加し仲良くなったインタープリター（森の案内人）や各参加者とともに、希望者は森に行くなど、楽しく自由に過ごしてもらう。 **見守り**

学習者の反応




また森に遊びに来たい！
虫や、植物など、好きなことが増えた！

自由にすごしていただき、森についての思い等を参加者同士で共有することで、また森に来たいと思ってもらえることができる。



成果と課題
「保護者だけでは体験させられないことをできよかった」という声もあり、四季を通じた自然体験を行うことで自然に親しんでもらうことができた。
「自然を好きになった」「自然を大切にすることも学び、お友達に教えている姿が見られる」などの声もあり、持続可能な社会について考え行動する人となる動機づくりに寄与した。
定員が少なく、参加できる人数に制限がある。

学習者の変容
半年後に取ったアンケートの結果では、お子様の自然体験の回数の増加や継続がみられた。また、概ね 1/3 の子どもに、行動や発言に保護者が分かるほどの変化が表れている。保護者については、約 37%の方が環境に関する自身の変化を感じていた。

取組の名称等
 平成 30 年度
 高校生環境学習推進事業


この事例に関連する主なSDGs



取組の内容	ねらい	学習者の状況	学習の効果&主に育まれる力
1 キックオフミーティングの開催（6月）	<p>○前年度参加の高校生から、活動内容や参加した感想等の生の声を聞く機会を設ける。</p> <p>○活動内容検討の際に各参加グループにファシリテーターをつけ、高校生の考えを引き出す。</p> <p>ゆさぶり</p> <p>見守り</p>	<p>参加グループは、自然科学部等、環境に関わる部活動のケースが多く、環境に興味がある高校生が多い。</p> <p>顧問の指導に従う高校生が多く、当初は活動に対して受け身の態度であった。</p> <p>最初は何をするか不安だったけど、昨年度参加した高校生の頑張りを知って、今後の参考になった！</p> <p>どのような内容でこれから調査・研究を進めて行こうかな・・・</p> 	<p>自分と同じ年代の高校生の昨年度の活動を知ることで、モチベーションを高め、また、今後の自分たちの活動がイメージしやすくなる。</p> <p>高校生中心で話し合うことで、自分達で調査・研究の内容や方向性等を決めることができる。</p> 
2 調査・研究（7月～11月）及び成果発表会（11月）	<p>○必要に応じてテーマに沿った専門家のもとで助言を受け、高校生が調査・研究を行う。</p> <p>○調査・研究を行うだけにとどまらず、これまでの高校生の活動の成果を、県主催のイベントのステージにて、県民に向けて発表する。</p> <p>共感・納得</p> <p>本物体験</p> <p>驚き・感動</p> <p>成果実感</p>	<p>石を観察すれば、その場所の環境や歴史が分かることもあるんだね！ 【豊橋東高】</p> <p>ウシモツゴの飼育下での繁殖に成功したため、次は生息域を特定してその地域に放流したい！ 【中部第一高】</p>  	<p>体験から自らで感じ、学ぶことができる。専門家からアドバイスをもらえるという貴重な体験を通して、自信がつく。</p> <p>発表に向けて自分のこれまでの活動を振り返ったり、発表を聞いた人から感想や質問等をもたらすことで、次の調査・研究の課題を見つけることができる。</p> 
3 環境学習教材（11月～2月）	<p>○ファシリテーターが高校生の考えを引き出しながら、教材の作成に関する進行の支援を行う。</p> <p>見守り</p>	<p>教材を通して楽しく、人々の生活と、自然環境の保全のバランスに関して学んでほしい！ 【海翔高】</p> 	<p>学んだことをどのように伝えるのかについて、高校生が自ら考え、仲間との話し合いを通して、成果を教材という形にできる。</p> 

成果と課題

- 活動の中で自ら課題を見いだすような、高校生の積極的な姿勢が見られた。
- 自分の考えを積極的に述べ、仲間と協力しながら取り組むことができるようになり、主体性や協調性が身についた。
- 高校生がより主体的に取り組める工夫を行う。

学習者の変容

- 自主的に取り組むことや自分の考えを具体的に表すことができるようになった。
【高校生へのアンケート結果】
- これまで人前で自分の意見を話すことが苦手な生徒が積極的に発言するようになった。
【顧問へのアンケート結果】